

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 よし しげ み き 紀 教授



主な研究テーマ

- タブレット等教育機器を活用した英語教育
- 海外遠征アスリートの英語学習支援ソフトの開発

平成28年度の研究内容とその成果

1) 本年度は国際交流センター2階のLL2教室を、タブレットを活用した多目的コミュニケーションルームに改修する計画があったため、タブレット等教育機器を活用した英語教育について研究を行いません。まず県内の大学でタブレット（ここではiPad）を活用する大学へ出かけ英語の授業を見学させて頂きました。この大学は、タブレットを大学で貸し出す（4人程のグループに1台）システムで、教室に充電器を備えたカートが置かれ、各グループで話し合った内容等が教室の電子黒板で共有できるようになっていました。またiPad活用の「簡易CALL」システムを備えた関西の大学にも足を運び話を伺いました。そこは従来のCALL教室に加え、iPadを活用する教室がありましたが、カスタマイズされた「協働学習支援システム」が備わっていて、ファイルの共有や教員ホームから教材等を簡単に操作可能になっていました。

10月鹿児島市で開催された「第64回九州地区英語教育研究大会2016鹿児島大会」で指導助言を依頼された際は、「教育機器を

活用した英語教育」に手を挙げ、7月からメールを利用して中学、高校の英語教員の研究発表の指導をしながら研究し、大会で発表しました。佐賀市内の中学校の教員は、全校児童生徒57名の小中一貫校において、プレゼンテーション能力や質問力、応答力などのコミュニケーション能力を高めることを目標に、テレビ会議システムを活用し、豪州生徒とのリアルタイム交流授業に取り組んでおられました。教室前に置かれたモニターテレビを通し生徒達が英語で交流する姿は、準へき地校でも教育機器を活用することで海外の生徒と英語を使った交流授業が実施できる事を実感しました。大分の高校教員は、iPad使用による発話（英語）の可視化と4技能の向上に取り組んでおられました。iPadを利用し生徒が自分の発話を録画することで、一斉にパフォーマンステストを実施できることに加え、生徒が客観的に自分の発話を振り返る力がつくのではと仮説を立てられました。お二人の授業をビデオで見て指導することで、テレビ会議システムやiPadの中・高の学校現場での具体的活用法を知る機会となりました。

本学ではiPadが数年前より必携化され、特に実技の授業等で活用されているようですが、英語の授業においてもスピーチやプレゼンテーション、グループワーク等で実技同様に今後のさらなる活用が望まれます。ICT機器はSimple is the best.で、壊れにくく、操作しやすく、準備に時間がかからず、管理しやすく、同時にどの学生にも簡単に使える等を考えていく必要があります。またICT活用の授業では、学生の意見や考えを中心に据えたクラスづくりを考えることも重要です。

2) 平成28年度は、海外で発行されたスポーツ関連の英語教材（『Career Paths-Sports』, 『English for Football』等）の題材や内容、構成等について分析しました。例えば、フットボールの教材は、ポジション毎（ディフェンダー、ミッドフィルダー、ストライカー、ゴールキーパー等）がタイトルになり各課に分けられ、試合場の仕組み、ゴールの場所、身体の各部位、プレーの動作を表す動詞（kick, shoot, head, foul等）、選手が試合に必要な道具（armband, boots, shin pads等）、実施のプレーの技術（slide/ sliding, tackle, nutmeg等）、コーチがよく使う表現（Come deep! Tack back等）、実在する選手のプロフィール等が題材となっていました。スポーツ種目ではサッカー、バスケット、ラグビー、スポーツ障害、ゴルフ、ホッケー、卓球、クリケット等が取り上げられ、広告やウェブサイト、新聞記事、ブログから読解教材が作成されていました。各競技関連の語彙はリス

トにまとめられ、巻末にグローサリーもあります。今後開発予定の海外遠征アスリート向けの英語教材の内容構成に参考にしたいと思います。また、国内で発行されたスポーツを題材にした英語教材『Spotlite on Sports and Athletes』（英宝社刊）を2年生の授業（初級A）で使ったところ、各競技の歴史や発展に関する読み教材等が、本学の学生のようなスポーツを専攻する学習者には高い動機付けとなることが分かりました。

これからの研究の展望

1) 学校現場は、視聴覚教室からLL教室、コンピュータ教室、そしてモバイル端末を利用して学習するモバイルラーニングへと変わり、ICTとモバイルラーニングを統合的に利用した外国語教育の時代に突入しています。時代の流れや学生のニーズに遅れないよう、ICTを統合的に利用した英語教育について今後も研究を継続したいと思います。

2) 平成28年度に行った既存のスポーツ関連の英語教材の分析を、今後の海外遠征アスリート向けの英語学習支援ソフトの開発に生かしていきたいと考えます。